

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野(1/4)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I 目標に向けた取組の進捗	II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	III 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
さがみロボット産業特区 (神奈川県)	4.1	4.0 <u>進捗度</u> ・特区発ロボットの商品化状況 125% ・実証実験等の実施件数 207% ・ロボット関連事業所の集積割合 43%	3.7 <u>規制の特例等</u> ・医療機器製造販売承認等の手続の円滑化 等 <u>地域独自の取組</u> ・「インベスト神奈川」等による企業誘致の促進 ・「県版特区」の推進 等	4.3	<p>・評価指標(1)「特区発ロボットの商品化の状況」、(2)「実証実験等の実施件数」共に、計画の進捗は順調で、おおいに評価できる。</p> <p>・元県立高校施設を活用した実証実験フィールドやリゾート施設での実験体制構築など多面的な取組によって引き続き成果が期待できる。</p> <p>・地域独自の取組が多くなされており、計画の推進に寄与しているものと思われる。</p> <p>・評価指標(3)「ロボット関連事業所の集積割合」の数値目標を達成するには、本特区にどのような強みがあるかを考え、誘致環境の整備やアピール方法を具体的に考える必要がある。</p> <p>・物流に関して、'さがみ'という土地柄を最大限活用すべき。海(横浜港)、空(羽田空港)の航路は絵を描いていた方が良い。</p> <p>・生活支援・医療・介護関連のロボット開発の成果や商品化のノウハウ、商品を利用する住民や企業からのフィードバックなどの優位性を活かし、集積地としての特色とその強みを今後も維持・展開することが期待される。</p>